

令和6年第2回
教育委員会定例会教育長報告

令和6年2月9日（金）

- | | | |
|---|--|------------------|
| 1 | 武蔵村山市校内通信ネットワーク環境等更新業務委託優先契約交渉事業者の決定について | 資料1 |
| 2 | 令和5年度武蔵村山市立学校「児童・生徒の学力向上を図るための調査」調査結果報告書について | 資料2 |
| 3 | 武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託業者について
（報告） | 資料3 |
| 4 | 第26回武蔵村山市生涯学習フェスティバルの開催について | 資料4
及び
資料4 |
| 5 | その他 | （別冊） |

武蔵村山市校内通信ネットワーク環境等更新業務委託

優先契約交渉事業者

1 優先契約交渉事業者の名称、所在地及び代表者氏名

(1) 名 称 S k y 株式会社

(2) 所 在 地 大阪府大阪市淀川区宮原3丁目4番30号

(3) 代表者氏名 大浦 淳司

2 契約の予定期間

令和6年4月1日（月）から令和11年8月31日（金）まで

令和 5 年度

武蔵村山市立学校
「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
調査結果報告書

令和 6 年 2 月 9 日
武蔵村山市教育委員会

【目次】

I	学力調査実施の概要	1
1	調査の趣旨	
2	調査の対象学年	
3	調査実施日	
4	調査教科及び調査時間	
5	調査人数	
II	学力調査結果の概要	2
1	小学校第4学年	
(1)	平均正答率	
(2)	正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率	
(3)	問題ごとの平均正答率	
2	小学校第5学年	
(1)	平均正答率	
(2)	正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率	
(3)	問題ごとの平均正答率	
3	中学校第1学年	
(1)	平均正答率	
(2)	正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率	
(3)	問題ごとの平均正答率	
4	中学校第2学年	
(1)	平均正答率	
(2)	正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率	
(3)	問題ごとの平均正答率	
III	質問紙調査結果の概要	14
1	小学校第4学年	
(1)	概要	
(2)	質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)	
2	小学校第5学年	
(1)	概要	
(2)	質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)	
3	中学校第1学年	
(1)	概要	
(2)	質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)	
4	中学校第2学年	
(1)	概要	
(2)	質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)	

I 学力調査実施の概要

1 調査の趣旨

本市児童・生徒の学力の実態を把握するとともに、課題を明らかにして学習指導の改善を図ることにより、確かな学力を育成する。

2 調査の対象学年

- (1) 市立小学校 第4・5学年
- (2) 市立中学校 第1・2学年

3 調査実施日

令和5年12月12日(火)

4 調査教科及び調査時間

- (1) 小学校 国語、算数 40分 児童質問紙 45分程度
- (2) 中学校 国語、数学 45分 生徒質問紙 45分程度

5 調査人数

校種	学年	国語		算数・数学	
		人数	実施率	人数	実施率
小学校	第4学年	563人	89.4%	564人	89.5%
	第5学年	524人	88.2%	523人	88.0%
	合計	1,087人	88.8%	1,087人	88.8%
中学校	第1学年	536人	89.8%	537人	89.9%
	第2学年	573人	86.9%	575人	87.3%
	合計	1,109人	88.3%	1,112人	88.5%

Ⅱ 学力調査結果の概要

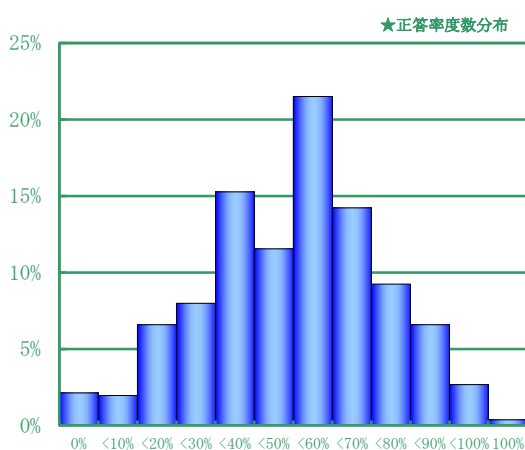
1 小学校第4学年

(1) 平均正答率

	国語			算数		
		基礎	活用		基礎	活用
市	49.7 %	54.8 %	40.1 %	47.0 %	51.8 %	39.1 %
全国	64.2 %	68.7 %	55.8 %	64.8 %	69.6 %	57.3 %

(2) 正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率

ア 国語

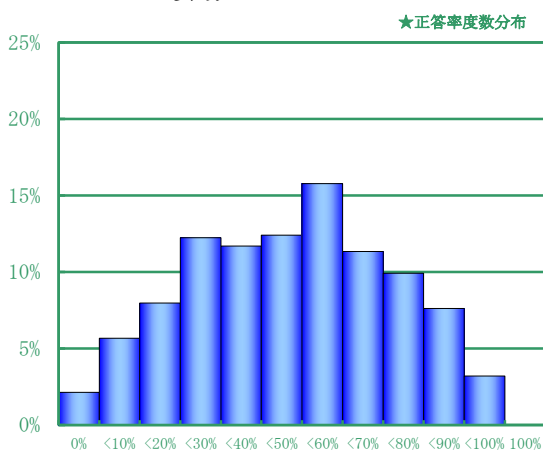


分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	58.7	73.0
	情報の扱い方に関する事項	30.3	41.4
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	90.8
	話すこと・聞くこと	41.5	52.7
	書くこと	20.1	46.5
観点	読むこと	51.7	63.1
	知識・技能	53.5	67.5
	思考・判断・表現	39.8	55.2
解答形式	主体的に学習に取り組む態度	25.0	44.6
	選択	57.2	70.2
	短答	58.1	70.2
	記述	23.8	44.4

全ての領域で全国平均正答率を下回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」に課題が見られる。

※目標値…学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの

イ 算数



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	数と計算	50.2	68.0
	図形	44.2	62.9
	変化と関係	50.2	75.8
	データの活用	28.7	45.4
観点	知識・技能	52.6	70.3
	思考・判断・表現	34.9	53.3
	主体的に学習に取り組む態度	26.8	45.5
解答形式	選択	49.9	68.1
	短答	49.2	67.1
	記述	9.7	25.3

各領域・各観点ともに、全ての項目で全国平均正答率を下回っている。基礎問題の平均正答率は50%を超えているが、基礎・基本の定着に課題が見られる。

(3) 問題ごとの平均正答率

ア 国語

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。	▼	46.0	58.5
	(2) 司会の役割を果たしながら話し合っている。	▼	41.2	48.4
	(3) 司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目している。	≒	47.6	54.1
2	(1)① 第4学年に担当されている漢字を正しく読んでいる。 ①ひんしゅ ②たんい ③か(ける)	▼	63.9	76.6
		≒	88.6	91.8
		▼	77.8	92.6
	(2)① 第3学年に担当されている漢字を正しく書いている。 ①代金 ②病院 ③集まる	≒	58.8	63.5
		▼	28.4	49.0
		≒	67.7	84.8
3	(1) 主語と述語との関係について理解している。	▼	54.9	71.5
	(2) 連体修飾語について理解している。	▼	43.9	64.6
	(3) ことわざの意味を知り、正しく使っている。	▼	72.1	90.8
	(4) 漢字辞典の使い方を理解している。	▼	54.4	64.8
	(5) 様子を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	▼	84.5	91.9
4	(1) 登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。	≒	82.6	88.5
		≒	61.5	71.8
	(3) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。	≒	56.1	71.4
5	(1) 叙述を基に段落相互の関係を捉えている。	▼	48.7	60.0
	(2) 叙述を基に文章の内容を捉えている。	▼	39.6	53.5
	(3) 情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。	▼	21.5	33.3
6	(1) 相手に伝わるように、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。	▼	57.5	76.3
	(2) 情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。	▼	14.9	26.2
7	指定された長さで文章を書いている。	▼	25.8	56.9
	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	▼	17.9	43.5
	内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。	▼	23.1	50.9
	内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。	▼	13.7	34.8

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

イ 算数

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 命数法で書かれた数の記数法での表し方を理解している。	▼	56.4	70.7
	(2) 10分の1にした数を求めることができる。	≒	76.8	87.5
	(3) 数直線上に示された大きい数の読み取り方を理解している。	▼	73.2	81.4
2	(1) 小数の大小比較ができる。	≒	78.4	81.5
	(2) 小数を用いて重さの単位換算ができる。	▼	20.9	29.5
3	(1) 上から2けたの概数の表し方を理解している。	▼	32.3	79.8
	(2) 概数に対応する数の範囲を理解している。	▼	52.0	71.9
4	(1) 計算のきまりを使って、()のある式の計算ができる。	▼	73.9	84.7
	(2) 3けた÷1けた=2けた(余りあり)の計算ができる。	▼	49.3	74.4
	(3) 3けた÷2けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	▼	34.6	60.4
	(4) 小数第一位+小数第二位の計算ができる。	≒	77.3	86.4
	(5) 小数第二位-小数第二位の計算ができる。	▼	58.2	72.7
5	除法の筆算に出てくる数の意味を理解している。	▼	33.7	49.6
6	文章問題を解くために立式した2けた÷1けた=2けた(余りあり)の式と計算結果から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。	▼	59.9	74.8
7	示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整数の減法に直している。	▼	21.3	28.0
8	(1) 基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。	▼	63.1	85.3
	(2) 基準量を求める除法の文章問題に合った立式ができる。	▼	46.8	77.5
9	2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べている。	▼	38.6	64.6
10	(1) 計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。	▼	47.7	72.6
	(2) 計算のきまりを理解し、求め方の図にあった式を選んでいる。	▼	64.2	76.7
11	分配法則を用いて計算している。	▼	34.8	54.7
12	(1) 分度器の中に示された角の大きさの読み取り方を理解している。	▼	64.5	75.9
	(2) 角の性質がわかり、2直線が交わってできる角の大きさを計算で求めている。	▼	42.6	61.4
	(3) 示された考え方をもとに、180°より大きい角を求めている。	▼	44.7	67.7
13	(1) 平行な直線の性質を理解している。	▼	47.0	70.3
	(2) 四角形の対角線の性質を理解している。	▼	28.5	42.8
14	ひし形の作図ができる。	▼	37.8	59.3
15	(1) 折れ線グラフの縦軸の1目もりの大きさを理解している。	▼	40.6	60.8
	(2) 折れ線グラフを正しく読み取っている。	▼	36.3	56.9
	(3) 問題を算数化し、折れ線グラフと棒グラフをもとに、目的にあう月を求めている。	▼	9.2	18.6
16	除法の性質を理解し、工夫した計算のしかたを説明している。	▼	10.1	31.9

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

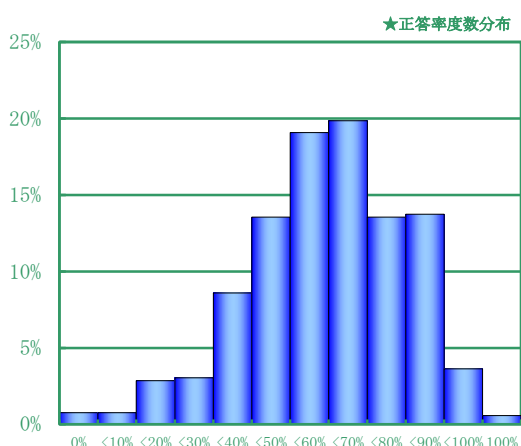
2 小学校第5学年

(1) 平均正答率

	国語			算数		
		基礎	活用		基礎	活用
市	59.3 %	66.1 %	44.0 %	43.4 %	50.5 %	26.1 %
全国	69.9 %	75.2 %	57.7 %	58.3 %	66.4 %	38.5 %

(2) 正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率

ア 国語

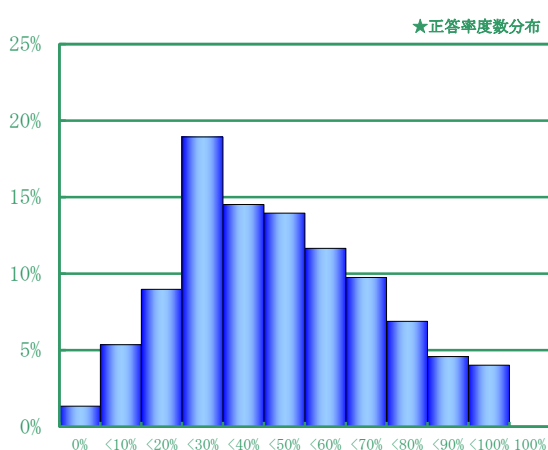


分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.0	75.0
	情報の扱い方に関する事項	29.0	37.2
	我が国の言語文化に関する事項	46.9	50.7
	話すこと・聞くこと	64.8	69.6
	書くこと	40.5	64.1
	読むこと	60.4	67.5
観点	知識・技能	59.4	67.9
	思考・判断・表現	53.3	66.6
	主体的に学習に取り組む態度	36.9	59.6
解答形式	選択	65.9	72.5
	短答	66.7	73.7
	記述	36.0	59.5

全ての領域で全国平均正答率を下回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」に課題が見られる。

※目標値…学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの

イ 算数



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	数と計算	49.0	62.6
	図形	45.7	65.7
	変化と関係	26.5	39.1
	データの活用	20.5	35.3
観点	知識・技能	49.4	66.3
	思考・判断・表現	32.5	43.6
	主体的に学習に取り組む態度	23.3	37.3
解答形式	選択	46.9	61.4
	短答	44.7	61.0
	記述	7.8	15.7

各領域・各観点ともに、全ての項目で全国平均正答率を下回っている。基礎問題の平均正答率は50%を超えているが、基礎・基本の定着に課題が見られる。

(3) 問題ごとの平均正答率

ア 国語

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えている。	≒	78.6	79.3
	(2) 互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合っている。	△	80.0	85.0
	(3) 互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げている。	▼	35.9	44.6
2	(1)① 第5学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。 ①じょうたい ②しょうひん ③ささ(える)	△	95.0	95.6
		▼	80.7	90.3
		≒	92.7	95.6
	(2)① 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ①希望 ②塩 ③覚える	▼	47.1	59.1
		≒	69.3	80.1
		△	77.5	87.2
3	(1) 漢字の由来について理解している。	▼	46.9	50.7
	(2) 連用修飾語について理解している。	▼	18.1	25.0
	(3) 敬語について理解し、正しく使っている。	▼	79.6	87.1
	(4) 思考に関わる語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	≒	88.9	95.6
	(5) 文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。	≒	45.6	51.2
4	(1) 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	≒	78.1	83.2
		≒	66.0	71.8
	(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	≒	61.1	68.2
5	(1) 叙述を基に文章の内容を捉えている。	≒	68.5	79.5
	(2) 文章全体の構成を捉えている。	▼	62.8	71.9
	(3) 情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。	▼	25.8	30.4
6	(1) 目的や意図に応じて、書き表し方を工夫している。	▼	62.6	72.6
	(2) 情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。	▼	32.3	43.9
7	指定された長さで文章を書いている。	▼	27.9	58.9
	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	▼	31.7	58.5
	自分の意見を明確にして書いている。	▼	48.5	79.3
	自分の意見を支える理由を明確にして書いている。	▼	40.1	71.5

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

イ 算数

問題番号		出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1)	偶数について理解している。	≒	76.1	88.7
	(2)	最大公約数について理解し、それを求めることができる。	▼	59.3	76.1
	(3)	最小公倍数を適用して問題を解決している。	▼	51.6	64.5
2	(1)	小数を分数の形に直すことができる。	▼	63.7	86.2
	(2)	整数÷整数の商を分数で表すことができる。	≒	66.5	73.4
	(3)	分数の分子と分母に同じ数を乗除してできる分数は、もとの分数と同じ大きさであることを理解している。	≒	49.1	57.4
3	(1)	小数第一位×小数第一位（純小数同士の乗法）の計算ができる。	▼	62.3	72.4
	(2)	小数第一位×小数第二位（被乗数に空位あり）の計算ができる。	▼	44.9	53.9
	(3)	小数第二位÷小数第一位＝小数第一位の計算ができる。	▼	57.6	69.3
	(4)	真分数＋真分数＝真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。	▼	50.7	77.7
	(5)	帯分数－真分数＝真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算（約分あり）ができる。	▼	41.7	63.5
4		小数の乗法と除法において、乗数による被乗数と積、除数による被除数と商の大小関係を理解している。	≒	47.0	51.3
5		小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。	▼	28.5	51.3
6	(1)	図を見て、小数倍の文章問題（純小数倍、比較量を求める）を解くために乗法の立式をしている。	≒	50.5	54.8
	(2)	図を見て、小数倍の文章問題（何倍かを求める）を解くために除法の立式をしている。	▼	54.1	69.5
7		示された除法の式の意味を理解している。	▼	29.8	36.8
8		小数第一位×小数第一位の乗法の式に合った文章問題を選んでいる。	▼	35.9	45.2
9	(1)	小数の除法（小数÷純小数）の文章問題を図に表している。	▼	31.0	48.1
	(2)	図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選んでいる。	▼	30.6	48.6
10	(1)	立方体の体積を求める式を理解している。	▼	34.8	60.8
	(2)	直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。	▼	41.3	61.3
11	(1)	三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから残りの角の大きさを求めることができる。	▼	52.0	71.4
	(2)	四角形の4つの角の和を理解し、3つの角の大きさから残りの角の大きさを求めることができる。	▼	46.3	64.7
12		既習の四角形について、対角線で分割した三角形を合同の観点でとらえ直している。	▼	39.8	52.1
13		3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる。	▼	60.0	83.8
14		比例の関係を理解し、一方の値に対応する他方の値を求めることができる。	▼	61.0	82.9
15	(1)	1人あたりのたたみの数やたたみ1枚あたりの人数を求めて、どちらの部屋がこんでいるのかを説明している。	▼	7.5	15.3
	(2)	単位量あたりの大きさから、大人の人数を求めることができる。	▼	11.1	19.1
16	(1)	値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求めることができる。	▼	34.8	61.6
	(2)	走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求めている。	▼	18.4	28.2
	(3)	問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求めている。	▼	8.2	16.0

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値＋5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値－5ポイント未満

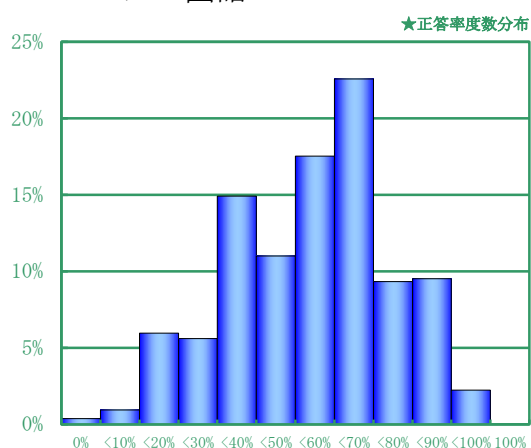
3 中学校第1学年

(1) 平均正答率

	国語			数学		
		基礎	活用		基礎	活用
市	53.8 %	55.5 %	50.7 %	51.6 %	57.3 %	33.5 %
全国	62.0 %	62.9 %	60.2 %	53.7 %	59.1 %	37.3 %

(2) 正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率

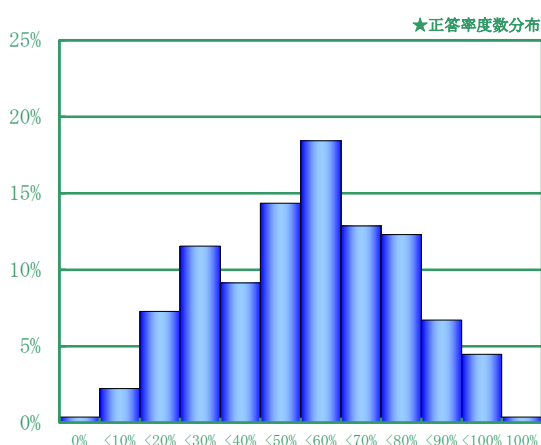
ア 国語



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.7	59.7
	情報の扱い方に関する事項	33.3	40.1
	我が国の言語文化に関する事項	5.6	25.4
	話すこと・聞くこと	83.2	87.7
	書くこと	43.7	57.8
観点	読むこと	56.3	63.6
	知識・技能	47.8	53.6
	思考・判断・表現	55.8	65.6
解答形式	主体的に学習に取り組む態度	46.0	60.0
	選択	62.9	69.6
	短答	49.8	55.3
	記述	45.4	60.5

各領域で全国の平均正答率を下回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られる。基礎問題において全国の平均正答率に対する充足率は88.2%であり、基礎・基本の定着が一定程度見られた。

イ 数学



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	数と式	49.8	52.9
	図形	68.2	69.1
	関数	46.9	48.5
観点	知識・技能	57.3	58.6
	思考・判断・表現	36.5	41.0
	主体的に学習に取り組む態度	41.4	44.1
解答形式	選択	57.5	60.3
	短答	49.9	50.8
	記述	14.5	20.5

基礎問題において全国の平均正答率に対する充足率は97.0%、領域「図形」において全国の平均正答率に対する充足率は98.7%であり、基礎・基本の定着が一定程度見られた。

(3) 問題ごとの平均正答率

ア 国語

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 必要に応じて記録しながら話の内容を捉えている。	≒	87.1	91.2
	(2) 自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。	≒	83.4	88.4
	(3) 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	≒	79.1	83.4
2	(1)①	≒	52.8	55.3
	(1)②	≒	63.2	67.0
	(1)③	≒	87.9	89.9
	(2)①	▼	39.4	43.1
	(2)②	≒	42.7	42.7
	(2)③	≒	78.7	82.4
3	(1) 文節について理解している。	△	56.7	57.7
	(2) 単語について理解している。	▼	33.2	44.2
	(3) 歴史的仮名遣いについて理解している。	▼	5.6	25.4
	(4) ことわざについて理解している。	≒	46.5	55.1
4	(1) 文章の内容について叙述を基に捉えている。	≒	41.6	47.0
	(2) 情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。	▼	37.7	45.2
	(3) 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	≒	52.2	63.3
5	(1) 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	≒	67.7	73.4
	(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてしている。	≒	77.4	85.2
	(3) 表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	≒	60.8	67.6
6	(1) 書く内容の中心が明確になるように、文章の構成を考えている。	≒	48.9	55.9
	(2) 読み手の立場に立って、文章を整えている。	≒	63.4	68.9
	(3) 情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	▼	28.9	35.0
7	指定された長さで文章を書いている。	▼	47.8	68.1
	2段落構成で文章を書いている。	▼	42.4	63.2
	読み取った内容を明確にして書いている。	▼	35.3	51.8
	自分の考えを明確にして書いている。	▼	39.0	61.5

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

イ 数学

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 負の数の大小関係について理解している。	▼	49.9	52.8
	(2) 絶対値について理解している。	≒	84.4	89.8
2	基準をもとに、正負の数を使って貸し出し冊数の差を求める式を選ぶことができる。	▼	40.2	47.8
3	素因数分解について理解している。	△	60.7	53.8
4	(1) 正負の数の減法ができる。	≒	75.4	72.2
	(2) 正負の数の除法ができる。	▼	57.2	64.5
	(3) 累乗を含む正負の数の乗法ができる。	≒	67.0	64.8
	(4) 1次式の減法ができる。	▼	33.3	38.3
5	(1) 文字式の表し方を理解している。	▼	18.6	17.8
	(2) 数量の関係を不等式で表すことができる。	△	70.4	69.4
6	1次方程式の等式の性質について理解している。	▼	66.5	73.5
7	(1) 簡単な1次方程式を解くことができる。	▼	69.3	70.6
	(2) 分数を含む1次方程式を解くことができる。	▼	32.8	36.5
8	比例式を解くことができる。	▼	45.8	53.3
9	(1) 具体的な事象における数量の関係をとらえ、その関係を比例式で表すことができる。	▼	36.1	43.5
	(2) 文章問題を解くための比例式を立式し、答えを求めることができる。	△	41.5	44.6
10	座標平面上の点の座標について理解している。	△	87.4	90.4
11	(1) 反比例の表から、 y を x の式で表すことができる。	△	67.2	68.2
	(2) 比例の関係にある1組の x と y の値から、 y を x の式で表すことができる。	≒	38.3	36.0
	(3) 反比例の関係を式に表し、 x の値に対応した y の値を求めることができる。	▼	50.4	51.4
	(4) 比例の式から、そのグラフをかくことができる。	≒	55.9	47.2
12	具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、もっとも重さが軽いくぎを表したグラフを選ぶことができる。	△	61.7	62.0
13	具体的な事象の数量関係が反比例であることをもとに、ある視力のすき間の長さを求めることができる。	▼	47.5	47.2
14	(1) 垂直な2直線の関係を表す記号について理解している。	≒	76.7	77.5
	(2) 平行移動だけで重ね合わせることができる三角形を選ぶことができる。	≒	77.1	77.9
	(3) 三角形を回転移動させた角度について理解している。	▼	54.0	53.7
15	三角形を対称移動させたときの図形を作図することができる。	▼	64.8	67.4
16	(1) 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる。	≒	55.5	60.9
	(2) 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる。	▼	20.9	21.6
	(3) 適切な事柄を判断し、その事柄が成り立たない理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	▼	20.1	28.6
17	(1) 事象から数量の関係を見出し、関係についての確に表現できる。	▼	18.4	21.3
	(2) 事象を数学的に解釈し、合計の個数の、1個の重さの違いによる差を数学的に説明することができる。	▼	6.6	12.4

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

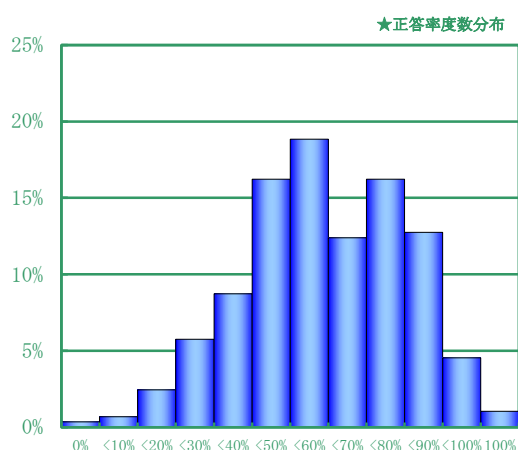
4 中学校第2学年

(1) 平均正答率

	国語			数学		
		基礎	活用		基礎	活用
市	58.7%	65.0%	46.1%	42.5%	47.6%	27.4%
全国	67.8%	73.4%	56.7%	50.1%	55.4%	34.1%

(2) 正答率度数分布及び観点別・領域内容別平均正答率

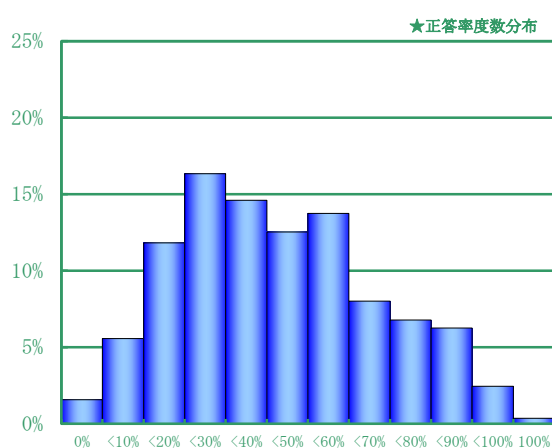
ア 国語



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.1	78.3
	情報の扱い方に関する事項	41.4	52.8
	我が国の言語文化に関する事項	54.6	66.3
	話すこと・聞くこと	65.0	73.0
	書くこと	40.9	53.4
観点	読むこと	57.8	69.0
	知識・技能	62.9	70.2
	思考・判断・表現	51.8	62.9
解答形式	主体的に学習に取り組む態度	38.6	50.6
	選択	63.4	71.9
	短答	65.4	73.0
	記述	38.9	51.9

各領域で全国の前答率を下回っているものの、基礎問題において全国の前答率に対するの充足率は88.6%であり、基礎・基本の定着が一定程度見られた。

イ 数学



分類	区分	平均正答率	
		市	全国
領域	数と式	41.6	46.9
	図形	56.7	64.4
	関数	37.7	46.7
観点	知識・技能	48.1	55.6
	思考・判断・表現	29.9	37.9
	主体的に学習に取り組む態度	27.4	34.1
解答形式	選択	45.8	53.5
	短答	44.0	51.2
	記述	6.3	14.6

基礎問題において全国の前答率に対するの充足率は86.0%、領域「数と式」において全国の前答率に対するの充足率は88.7%であり、基礎・基本の定着が一定程度見られた。

(3) 問題ごとの平均正答率

ア 国語

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている。	≒	84.8	89.5
	(2) 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	≒	74.5	82.3
	(3) 論理の展開に注意して、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	▼	35.8	47.3
2	(1)①	≒	65.6	71.8
	(1)②	△	95.3	97.8
	(1)③	△	96.0	97.7
	(2)①	≒	46.6	53.8
	(2)②	≒	64.4	68.9
	(2)③	≒	84.6	89.2
3	(1) 文の成分について理解している。	≒	79.4	85.1
	(2) 行書の特徴について理解している。	▼	39.8	48.9
	(3)① 現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる。	≒	87.4	94.3
	(3)② 歴史的仮名遣いについて理解している。	▼	36.5	55.6
	(4) 故事成語について理解している。	△	60.7	61.9
4	(1) 文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えている。	≒	47.8	56.4
	(2) 情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している。	▼	48.7	61.4
	(3) 文章全体の中における段落の役割について捉えている。	≒	57.6	65.2
5	(1) 登場人物の設定の仕方を捉えている。	≒	71.0	82.2
	(2) 文章の表現の効果について考えている。	▼	54.3	69.1
	(3) 文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。	▼	67.2	79.8
6	(1) 情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整えている。	▼	28.8	39.0
	(2) 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、文章の構成を工夫している。	▼	59.9	70.6
	(3) 情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	▼	46.6	58.0
7	指定された長さで文章を書いている。	▼	43.5	55.0
	2段落構成で文章を書いている。	▼	40.5	58.3
	読み取った内容を明確にして書いている。	▼	34.4	45.4
	自分の考えを明確にして書いている。	▼	33.0	47.2

※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

イ 数学

問題番号	出題のねらい	評価	市正答率	全国正答率
1	(1) 2つの文字を含む式について、数を代入して式の値を求めることができる。	≒	64.7	68.9
	(2) 等式を変形して、式をある文字について解くことができる。	≒	40.9	45.0
2	(1) 多項式の同類項をまとめる計算ができる。	▼	50.8	63.6
	(2) 単項式の乗法と除法ができる。	▼	30.6	35.1
	(3) 分数を含む多項式の計算ができる。	▼	33.9	37.7
3	(1) 加減法の原理を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。	▼	64.9	66.9
	(2) 代入法の原理を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。	▼	47.8	51.5
	(3) $A=B=C$ の形の方程式を解くことができる。	≒	50.1	51.6
4	連立方程式を利用して、文章問題を解くことができる。	≒	49.6	56.5
5	与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。	▼	14.6	24.3
6	(1) 1次関数の関係を表す表から、傾きや切片の値の正負を判断し、正しいグラフを選ぶことができる。	▼	46.1	50.8
	(2) 1次関数の関係を表す式から、 x と y の値を示した表を選ぶことができる。	▼	38.6	44.9
7	1次関数の式から、グラフをかくことができる。	▼	59.1	70.9
8	(1) 1次関数の式について、 x の増加量から y の増加量を求めることができる。	▼	50.1	62.7
	(2) 1次関数 $y=ax+b$ のグラフにおける b について、正しく説明しているものを選ぶことができる。	≒	55.5	64.1
	(3) 2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。	▼	47.8	61.0
	(4) ある直線に平行であることと、1点の座標から1次関数の式を求めることができる。	▼	40.2	54.4
9	(1) X 軸に平行な直線の式を選ぶことができる。	▼	32.3	46.0
	(2) 2つの1次関数のグラフの交点の座標を求めることができる。	▼	27.8	35.4
10	水そうに入れる水の高さ(深さ)と時間との関係をグラフに表し、読み取ることができる。	▼	24.2	30.7
11	ある1次関数のグラフと x 軸、 y 軸との交点からできる三角形について、面積を求めることができる。	▼	26.1	33.7
12	図から同位角や錯角について正しく説明しているものを選ぶことができる。	≒	53.0	54.0
13	(1) 平行線と同位角、錯角の関係や三角形の内角、外角の性質について理解し、角の大きさを求めることができる。	≒	76.5	89.1
	(2) 多角形の外角の和について理解し、角の大きさを求めることができる。	▼	44.0	55.1
14	証明の必要性和意味を理解し、正しい説明を選ぶことができる。	▼	59.7	72.8
15	(1) 仮定の指す内容について理解している。	▼	38.1	42.5
	(2) 三角形の合同条件について理解している。	≒	68.0	72.7
16	(1) 連立方程式を解く過程を、事象に即して解釈することができる。	≒	45.7	46.0
	(2) 連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、数学的に説明することができる。	▼	5.2	15.4
17	(1) かかる費用の求め方を理解し、10か月使用する場合にかかる費用を求めることができる。	▼	39.5	45.5
	(2) グラフの切片が表す数量を指摘することができる。	▼	32.7	40.2
	(1) 何か月使うとLED電球の方がお得かの求め方を説明することができる。	▼	7.5	13.8

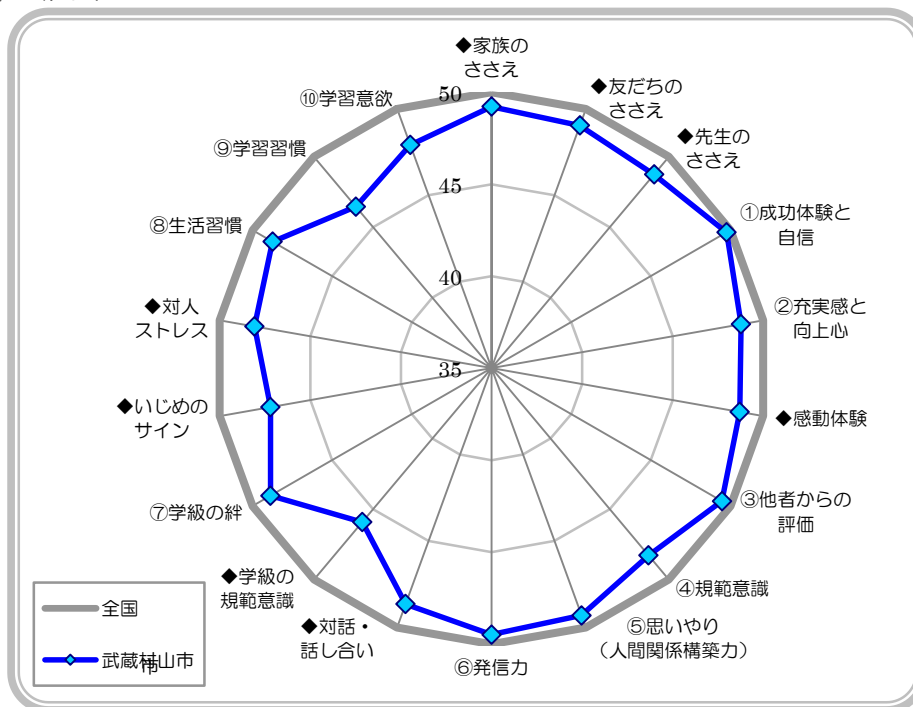
※評価…設問ごとの目標値を基準とした3段階評価で表している。

△目標値+5ポイント以上 ≒目標値±5ポイント ▼目標値-5ポイント未満

Ⅲ 質問紙調査の結果の概要

1 小学校第4学年

(1) 概要



【標準スコア】	項目	全国	市
自己認識	◆家族のささえ	50.0	49.2
	◆友だちのささえ		49.0
	◆先生のささえ		48.7
	①成功体験と自信		49.8
	②充実感と向上心		48.8
	③感動体験		48.7
社会性	④他者からの評価		49.5
	⑤規範意識		48.3
	⑥思いやり (人間関係構築力)		49.3
	⑦発信力		49.5
	◆対話・話し合い		48.6
学級環境	⑧社会参画		—
	◆学級の規範意識	45.9	
	⑨学級の絆	48.9	
	◆いじめのサイン	47.2	
生活・学習習慣	◆対人ストレス	48.1	
	⑩生活習慣	48.7	
	⑪学習習慣	46.5	
	⑫学習意欲	47.9	
	平均		48.5

(2) 質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)

○ 先生はクラスのみなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	よくほめてくれる	まあまあほめてくれる	あまりほめてくれない	ほめてくれない		
全国	65.1	29.7	4.1	1.0	0.1	94.8
市	59.6	31.5	5.8	2.5	0.7	91.0
A層	61.7	31.2	5.0	2.1	0.0	92.9
B層	64.3	26.4	5.7	3.6	0.0	90.7
C層	58.2	32.6	6.4	2.8	0.0	90.8
D層	54.3	35.0	6.4	1.4	2.9	89.3

○ 自分のいいところを、いくつか言えますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	言える	一つは言える	思いつかない	言えない		
全国	43.2	37.6	11.6	7.6	0.1	80.8
市	41.7	38.3	11.6	7.9	0.5	80.0
A層	51.1	36.9	6.4	5.7	0.0	87.9
B層	46.4	36.4	11.4	5.7	0.0	82.9
C層	41.1	36.9	14.9	7.1	0.0	78.0
D層	30.0	42.1	13.6	12.1	2.1	72.1

○ あなたのクラスにはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	とてもいいところがある	いちおうある	あまりない	まったくない		
全国	64.8	29.8	4.0	1.3	0.1	94.6
市	60.3	33.9	3.7	1.4	0.7	94.2
A層	68.1	27.0	4.3	0.7	0.0	95.0
B層	61.4	36.4	1.4	0.7	0.0	97.9
C層	54.6	40.4	3.5	1.4	0.0	95.0
D層	57.9	30.7	5.7	2.9	2.9	88.6

○ 平日、1日どれぐらいの時間、テレビや映画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

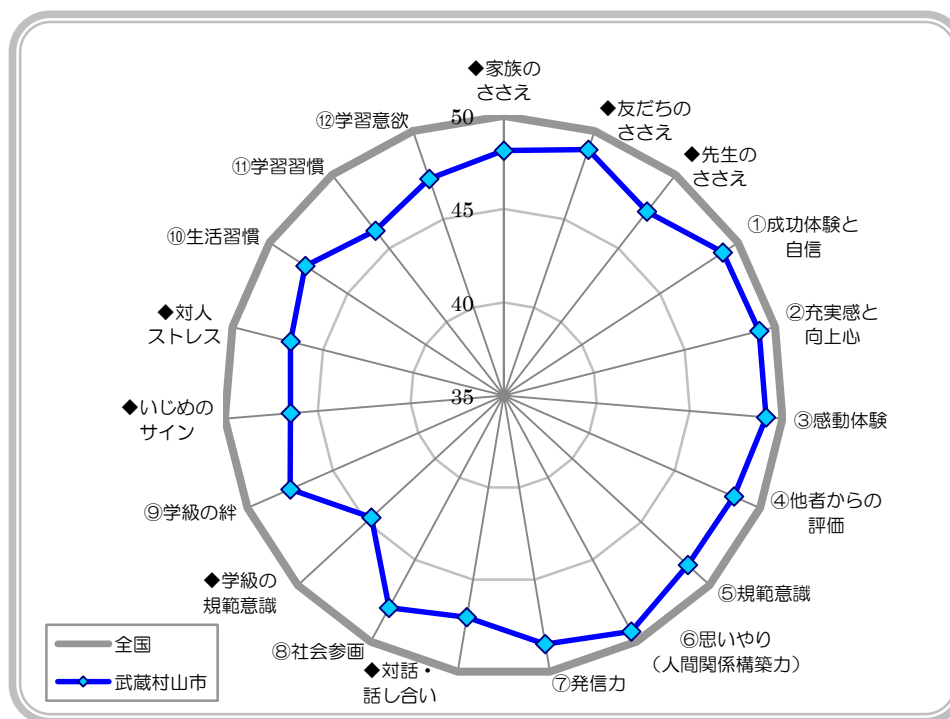
選択肢	1	2	3	4	5	6	無答他
	まったくしない	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上	
全国	5.3	15.6	24.6	22.6	11.7	19.9	0.3
市	4.2	11.6	19.7	24.1	16.0	22.8	1.6
A層	2.1	9.9	28.4	29.8	17.7	12.1	0.0
B層	2.9	10.7	22.9	29.3	17.9	16.4	0.0
C層	9.2	14.9	14.9	17.0	17.7	24.8	1.4
D層	2.9	10.7	13.6	20.0	10.7	37.1	5.0

児童・生徒を学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けている。

肯定率…選択肢「1」または「2」を選択した児童・生徒の割合の合計

2 小学校第5学年

(1) 概要



【標準スコア】	項目	全国	市
自己認識	◆家族のささえ	50.0	48.1
	◆友だちのささえ		48.9
	◆先生のささえ		47.5
	①成功体験と自信		49.0
	②充実感と向上心		49.1
	③感動体験		49.1
	④他者からの評価		48.5
社会性	⑤規範意識	48.4	
	⑥思いやり (人間関係構築力)	49.4	
	⑦発信力	48.5	
	◆対話・話し合い	47.0	
	⑧社会参画	47.9	
学級環境	◆学級の規範意識	44.6	
	⑨学級の絆	47.5	
	◆いじめのサイン	46.5	
	◆対人ストレス	46.8	
生活・学習習慣	⑩生活習慣	47.7	
	⑪学習習慣	46.2	
	⑫学習意欲	47.3	
平均			47.8

(2) 質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)

○ 先生はクラスのみなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	よくほめてくれる	まあまあほめてくれる	あまりほめてくれない	ほめてくれない		
全国	61.4	32.0	4.2	1.1	1.2	93.4
市	45.2	41.6	9.9	1.1	2.1	86.8
A層	49.6	38.2	11.5	0.8	0.0	87.8
B層	45.0	46.5	7.0	0.8	0.8	91.5
C層	44.7	43.9	9.8	0.0	1.5	88.6
D層	41.4	38.3	10.9	3.1	6.3	79.7

○ 自分には、いいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	ある	自分なりにあると思う	分からない	一つもない		
全国	39.4	31.1	24.1	4.5	1.0	70.4
市	30.3	33.6	29.4	5.2	1.5	63.9
A層	37.4	35.1	25.2	2.3	0.0	72.5
B層	25.6	34.1	34.1	5.4	0.8	59.7
C層	32.6	37.9	23.5	4.5	1.5	70.5
D層	26.6	27.3	33.6	8.6	3.9	53.9

○ あなたのクラスにはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	とてもいいところがある	いちおうある	あまりない	まったくない		
全国	65.7	29.0	3.3	1.0	1.1	94.7
市	53.6	38.9	4.0	1.5	1.9	92.6
A層	60.3	35.9	1.5	2.3	0.0	96.2
B層	57.4	34.9	6.2	1.6	0.0	92.2
C層	55.3	36.4	5.3	0.8	2.3	91.7
D層	40.6	49.2	3.1	1.6	5.5	89.8

○ 平日、1日どれぐらいの時間、テレビや映画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

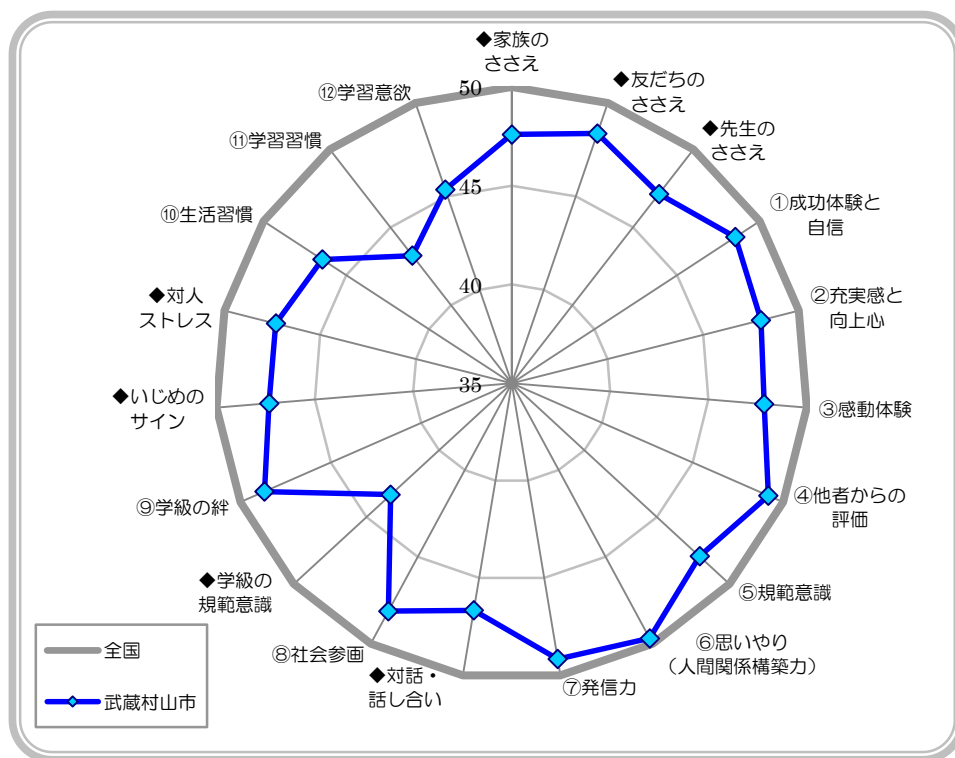
選択肢	1	2	3	4	5	6	無答他
	まったくしない	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上	
全国	3.8	11.1	22.1	24.4	17.3	18.7	2.6
市	1.9	6.1	15.3	23.7	20.4	28.4	4.2
A層	3.1	6.9	22.9	21.4	22.9	19.8	3.1
B層	1.6	7.8	11.6	33.3	20.9	22.5	2.3
C層	1.5	6.8	12.9	22.7	23.5	29.5	3.0
D層	1.6	3.1	13.3	18.0	14.8	41.4	7.8

児童・生徒を学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けている。

肯定率…選択肢「1」または「2」を選択した児童・生徒の割合の合計

3 中学校第1学年

(1) 概要



【標準スコア】	項目	全国	市
自己認識	◆家族のささえ	50.0	47.6
	◆友だちのささえ		48.4
	◆先生のささえ		47.1
	①成功体験と自信		48.5
	②充実感と向上心		48.0
	③感動体験		47.8
	④他者からの評価		49.2
社会性	⑤規範意識		47.9
	⑥思いやり(人間関係構築力)		49.7
	⑦発信力		49.2
	◆対話・話し合い		46.7
	⑧社会参画		48.1
学級環境	◆学級の規範意識		43.3
	⑨学級の絆		48.7
	◆いじめのサイン	47.3	
	◆対人ストレス	47.3	
生活・学習習慣	⑩生活習慣	46.5	
	⑪学習習慣	43.2	
	⑫学習意欲	45.4	
平均			47.4

(2) 質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)

○ 先生はクラスのみんなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	よくほめてくれる	まあまあほめてくれる	あまりほめてくれない	ほめてくれない		
全国	56.3	37.9	4.1	1.0	0.8	94.2
市	41.8	47.3	8.1	2.0	0.7	89.1
A層	47.4	44.5	7.3	0.0	0.7	92.0
B層	44.2	47.3	6.2	2.3	0.0	91.5
C層	42.9	45.9	8.3	2.3	0.8	88.7
D層	33.8	50.4	10.5	3.8	1.5	84.2

○ 自分にはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	ある	自分なりにあると思う	分からない	一つもない		
全国	33.6	33.0	28.1	4.8	0.5	66.5
市	31.6	30.5	31.8	5.4	0.7	62.1
A層	30.7	31.4	31.4	5.8	0.7	62.0
B層	38.8	29.5	27.9	3.1	0.8	68.2
C層	28.6	27.8	35.3	6.8	1.5	56.4
D層	29.3	33.1	32.3	5.3	0.0	62.4

○ あなたのクラスにはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	とてもいいところがある	いちおうある	あまりない	まったくない		
全国	62.7	32.6	3.1	0.8	0.7	95.4
市	56.7	37.3	4.4	0.9	0.6	94.1
A層	48.2	45.3	5.8	0.7	0.0	93.4
B層	62.8	30.2	5.4	0.8	0.8	93.0
C層	58.6	34.6	4.5	2.3	0.0	93.2
D層	56.4	39.8	2.3	0.0	1.5	96.2

○ 平日、1日どれぐらいの時間、テレビや映画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

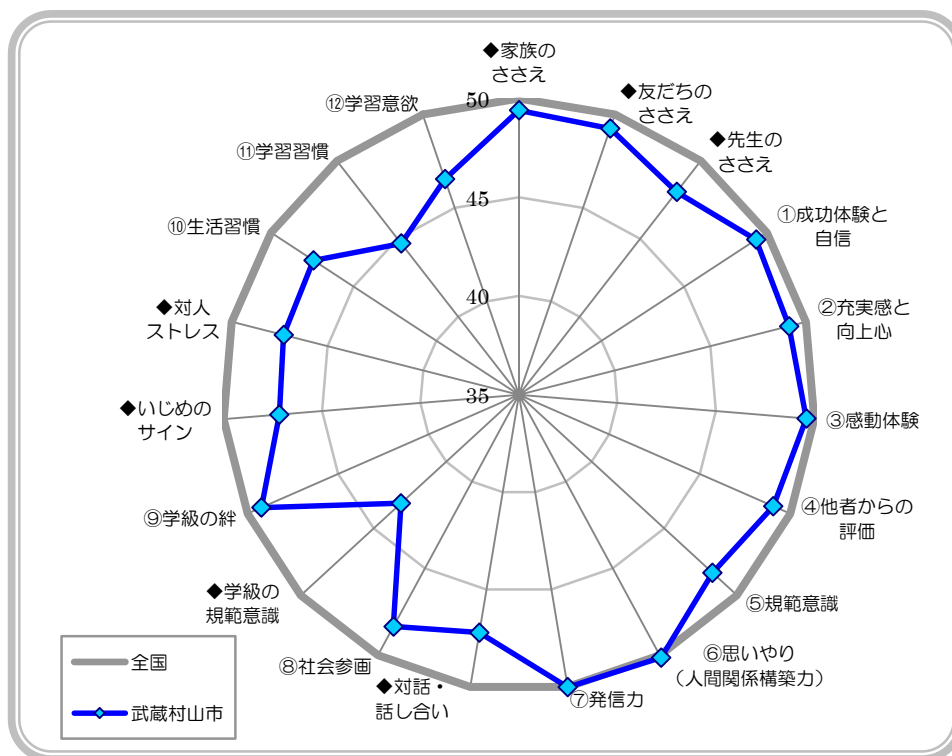
選択肢	1	2	3	4	5	6	無答他
	まったくしない	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上	
全国	2.0	6.4	16.9	27.9	22.8	22.4	1.7
市	2.0	3.3	9.6	21.6	27.4	33.6	2.4
A層	1.5	3.6	13.9	27.7	26.3	25.5	1.5
B層	0.8	1.6	7.0	23.3	37.2	27.1	3.1
C層	1.5	4.5	9.8	21.8	26.3	34.6	1.5
D層	4.5	3.8	6.8	14.3	21.1	46.6	3.0

児童・生徒を学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けている。

肯定率…選択肢「1」または「2」を選択した児童・生徒の割合の合計

3 中学校第2学年

(1) 概要



【標準スコア】

	項目	全国	市
自己認識	◆家族のささえ	50.0	49.4
	◆友だちのささえ		49.2
	◆先生のささえ		48.0
	①成功体験と自信		49.3
	②充実感と向上心		49.1
	③感動体験		49.6
	④他者からの評価		49.1
社会性	⑤規範意識	50.0	48.3
	⑥思いやり (人間関係構築力)		50.1
	⑦発信力		50.0
	◆対話・話し合い		47.2
	⑧社会参画		48.3
学級環境	◆学級の規範意識	49.2	43.1
	⑨学級の絆		49.2
	◆いじめのサイン		47.2
	◆対人ストレス		47.3
生活・学習習慣	⑩生活習慣	46.5	47.4
	⑪学習習慣		44.7
	⑫学習意欲		46.5
平均			48.1

(2) 質問別回答構成比と学力層のクロス集計結果 (%)

○ 先生はクラスのみなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	よくほめてくれる	まあまあほめてくれる	あまりほめてくれない	ほめてくれない		
全国	50.5	43.0	4.8	1.1	0.6	93.5
市	42.9	42.4	11.2	2.8	0.7	85.3
A層	38.9	42.4	14.6	4.2	0.0	81.3
B層	53.5	35.9	7.7	2.1	0.7	89.4
C層	42.4	43.8	9.7	2.1	2.1	86.1
D層	36.6	47.9	12.7	2.8	0.0	84.5

○ 自分にはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	ある	自分なりにあると思う	分からない	一つもない		
全国	31.5	34.6	28.7	4.7	0.4	66.1
市	33.0	29.8	30.5	5.2	1.4	62.8
A層	39.6	29.9	25.7	4.2	0.7	69.4
B層	33.8	32.4	28.2	4.9	0.7	66.2
C層	30.6	31.3	33.3	2.1	2.8	61.8
D層	27.5	26.1	35.2	9.9	1.4	53.5

○ あなたのクラスにはいいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	無答他	肯定率
	とてもいいところがある	いちおうある	あまりない	まったくない		
全国	57.1	37.5	3.9	1.0	0.6	94.5
市	55.8	37.5	4.5	1.9	0.2	93.4
A層	45.8	48.6	2.8	2.8	0.0	94.4
B層	61.3	31.7	6.3	0.7	0.0	93.0
C層	62.5	33.3	3.5	0.7	0.0	95.8
D層	53.5	36.6	5.6	3.5	0.7	90.1

○ 平日、1日どれぐらいの時間、テレビや映画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	無答他
	まったくしない	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上	
全国	1.6	4.6	14.4	29.1	25.8	23.1	1.3
市	0.9	2.6	8.6	19.5	29.0	36.5	3.0
A層	1.4	4.2	9.7	25.7	34.0	22.9	2.1
B層	0.0	1.4	12.0	20.4	31.0	32.4	2.8
C層	1.4	2.1	7.6	16.0	30.6	40.3	2.1
D層	0.7	2.8	4.9	16.2	20.4	50.0	4.9

児童・生徒を学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けている。

肯定率…選択肢「1」または「2」を選択した児童・生徒の割合の合計

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務
委託業者について（報告）

令和 6 年 1 月

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会

目 次

はじめに	1
I 審査の経過	2
1 申請及び審査の経過	2
2 申請状況	2
II 審査の結果	3
1 審査の方法	3
2 審査の結果	3
3 審査の講評	5
III 参考資料	6
1 審査委員会要領	6
2 審査委員会委員	7
3 業務受託希望者申請要領	8
4 審査委員会審査要領	15

はじめに

本報告書は、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託業者選定の審査の経過及び結果等について報告するものです。

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務（以下「給食調理等業務」という。）については、平成22年度から、民間が保有する学校給食調理等施設において調理等の業務を行わせる民設民営の委託方式を採用しています。

給食調理等業務の委託に際しては、子供たちの食の安全を第一に考え、価格のみによることなく、学校給食への考え方や取組、調理等施設の概要、安全衛生管理、従業員の研修、緊急時の体制などを十分に確認して委託業者を選定する必要があります。このことから、公募型プロポーザル方式を採用し、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託業者選定委員会による審査を経て、選定された事業者との間に委託契約を締結し、2回の更新を経て、現在に至っていますが、現在の委託契約期間が令和7年3月31日をもって満了することから、教育委員会で検討した結果、現受託者の学校給食に対する理解度や衛生面での秀逸さ及び現在の委託契約は、価格面及びリスク分担の面でも市に有利な契約となっていること等から、前回同様に次期業務受託希望の申請を非公募により行いました。

給食調理等業務委託業者の選定に当たっては、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会要領に基づき、審査委員会を設置いたしました。

当該要領によって設置された本審査委員会は、1月9日及び同月19日に会議を開催し、業務受託希望者から提出された書類及び業務受託希望者の説明（プレゼンテーション）を基に、厳正な審査を行い、給食調理等業務の委託業者として適当と認める事業者の選定を行いました。

選定された事業者には、学校給食の意義及び役割を十分認識され、子供たちに安全・安心でおいしい学校給食が安定的に提供されることを期待するものです。

令和6年1月

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会

委員 長 池 谷 光 二
職務代理者 鈴 木 義 雄
委 員 雨 宮 則 和
委 員 神 子 武 己
委 員 矢 野 喜 之

I 審査の経過

1 申請及び審査の経過

期 日	経 過
令和5年11月21日(火)	申請要領及び仕様書等の配布
令和5年11月22日(水) から同年12月25日(月)	業務受託希望申請書の受付期間
令和6年1月9日(火)	第1回審査委員会(書面開催) 1 委員長職務代理者の指名について 2 審査委員会の会議の取扱い等について 3 その他
令和6年1月19日(金)	第2回審査委員会 1 武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託業者の選定について (1) 書類審査 (2) 説明(プレゼンテーション)の実施 (3) 審査及び選定(採点・選定・講評) 2 報告書(案)の検討について 3 その他

2 申請状況

次の業者から業務受託希望申請書の提出がありました。

ハーベストネクスト株式会社

II 審査の結果

1 審査の方法

審査委員会では、審査要領に基づき、申請業者の名称を明らかにするとともに、当該申請業者が申請要領に示された応募資格等を満たしていることを確認した上で、当該申請業者から提出された申請書、事業計画書その他の書類（以下「提出書類」という。）の内容及び当該申請業者による提出書類の内容に関する説明（プレゼンテーション）を基に、あらかじめ定められた審査基準に従って審査、選定を行いました。

審査の方法は、提出書類による審査の結果並びに当該申請業者による提出書類の内容に関する説明及び質疑応答の結果に基づき、個別に各委員が審査基準の各項目について1点から5点（一部10点）までの点数を付すこと（以下「採点」という。）により行いました。

選定に当たっては、各委員の採点を審査基準の項目ごとに集計した点数を委員の数で除した数値（小数点以下第2位を四捨五入する。以下「評点」という。）の合計が過半点に満たない場合又は評点のいずれかが満点の10分の3に満たない場合（審査基準の4の(3)に係るものを除く。）は、失格とすることとしました。

2 審査の結果

審査委員会において厳正な審査を行った結果、次の業者を武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務の委託業者候補者として選定しました。

名 称 ハーベストネクスト株式会社

所在地 横浜市保土ヶ谷区岩間町二丁目120番地

代表者 代表取締役 脇 本 実

武蔵村山市中学校学校給食調理等業務受託希望者審査基準表（採点結果）

ハーベストネクスト株式会社

審査基準	配点	採点
1 学校給食に対する理解があること。	(15)	12
(1) 教育の一環としての学校給食の意義や目的を理解するとともに、その重要性を認識しているか。	5	4.2
(2) 共同調理場方式をよく理解し、効率的に調理業務を遂行するためのツールや独自システムの方策を提案しているか。	5	4.0
(3) おいしい給食づくりの工夫や新たな献立の試作等に対する協力体制が提案されているか。	5	3.8
2 安全・安心でおいしい学校給食を提供することができること。	(35)	28.4
(1) 学校給食衛生管理基準及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理マニュアルを整備し、これに基づいた調理業務を行えるか。	5	4.2
(2) 東京都の「学校給食における安全・衛生管理について」を遵守するとともに、年度の更新にも速やかに対応できるか。	5	3.8
(3) 過去に安全衛生管理上重大な事故を起こしていないか。起こしていた場合のその後の対応は適切であったか。	5	4.0
(4) 従事者等に対する食品の安全衛生管理に関する教育は徹底しているか。	5	4.4
(5) 従事者の健康管理（健康診断、細菌検査等）を確実にを行うとともに労災事故を防ぐための防止策を設定し、その体制を整備しているか。	5	4.2
(6) 食中毒、異物混入等の予防対策の取組は十分であるか。	5	4.0
(7) アレルギー対応調理が行える実施体制及び経験を有しているか。	5	3.8
3 業務を安定して行う能力を有していること。	(20)	16.6
(1) 仕様書に基づき業務を継続して安定的に履行する能力を有しているか。	5	4.0
(2) 緊急時の危機管理体制が確立されており、かつ、その取組が十分に機能するか。	5	4.2
(3) 手作り給食の経験者並びに学校給食及び大量調理の経験者を確実に配置するなど、安定的な給食提供のための職員配置がなされるか。	5	4.2
(4) 突発的な事象に対し、交代要員の確保など、十分に対応できる体制を有しているか。	5	4.2
4 その他	(30)	22.4
(1) 独自の事業等の提案は適切であるか。	10	7.2
(2) 全体の予算は適切で、経費節減が図れるものであるか。	10	7.2
(3) 災害時の協力体制は、実施可能な提案となっているか。	10	8.0
合計点数	100	79.4

3 審査の講評

選定された業者は、本市で学校給食の調理等業務を受託する以前から他市において業務の経験を有しており、また、本市においても既に約14年にわたり業務を受託し、安定した業務運営を行ってきています。そうしたノウハウの蓄積もあり、食缶方式により子供たちに温かい学校給食が提供されている状況などから、学校給食に対して大変理解があるものと評価しました。

また、学校給食において最も重要な「食の安全」に関しても、従業者の健康管理を含む衛生管理として HACCP（衛生管理手法）の導入や既に取得している ISO22000（食品衛生マネジメントシステム）及び東京都食品安全自主管理認証制度に基づく高度な衛生管理が継続されていくことも確認しました。

これらのほかにも、計画的な従業員教育、QC（品質管理）グループによる衛生検査・点検の実施、緊急時の応援体制の確立など、「安全・安心でおいしい学校給食」の提供のために様々な取組が提案されています。

一方、次期委託期間の最終年度である令和12年度には、業務開始から20年目を迎え、設備の経年劣化が進むことが想定されますが、このことに関しても、精密点検や補修・入替えが計画されており、これらが確実に実施されることにより、安定的な学校給食の提供がなされていくものと考えます。

さらに、経費についても、アレルギー除去食の実施など新たな取組や設備の精密点検等や人件費等の高騰分が加わりながらも、これまでの現委託期間5年間と比較して適切な額で提案されており、総合的にも高く評価するに至りましたが、更なる創意工夫による経費の節減にも期待するところです。

また、次期委託期間においても、高度な衛生管理のもとでの手作り給食の実践など、より安全・安心でおいしい学校給食が安定的に提供されることを期待しています。

なお、次期委託期間の終期については、委託事業者の変更が比較的容易である7月31日としていることも申し添えます。

Ⅲ 参考資料

1 審査委員会要領

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会要領

令和5年11月16日教育長決定

(設置)

第1条 武蔵村山市立の中学校において実施される学校給食の調理、配送、配膳等の業務(以下「給食調理等業務」という。)を委託する業者の選定を適正に行うため、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会(以下「審査委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 審査委員会は、別に定めるところにより給食調理等業務を受託しようとする業者がした申請の内容を審査し、当該申請をした業者(第6条において「申請業者」という。)を給食調理等業務の受託者とするものの適否について教育委員会に報告する。

(組織)

第3条 審査委員会は、委員5人をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる職にある者をもって充てる。

- (1) 教育長
- (2) 企画財政部長
- (3) 教育部長
- (4) 教育部学校給食課長
- (5) 教育部学校給食課防災食育センター整備担当課長

(委員長)

第4条 審査委員会に委員長を置き、前条第2項第1号に掲げる者をもって充てる。

2 委員長は、審査委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 審査委員会の会議は、委員長が招集する。

2 審査委員会の会議は、非公開とする。

3 審査委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

4 審査委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(説明の聴取)

第6条 審査委員会は、給食調理等業務を委託する業者の選定に必要と認めるときは、申請業者の代表者又はその関係者を会議に出席させ、説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 審査委員会の庶務は、教育部学校給食課において処理する。

(委任)

第8条 この要領に定めるもののほか審査委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が審査委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要領は、公布の日から施行する。

2 審査委員会委員

氏 名	区 分	備 考
いけ や こう じ 池 谷 光 二	教育長の職にある者 (要領第3条第2項該当)	委員長
すず き よし お 鈴 木 義 雄	教育部長の職にある者 (要領第3条第2項該当)	職務代理者
あめ みや のり かず 雨 宮 則 和	企画財政部長の職にある者 (要領第3条第2項該当)	委員
かみ こ たけ し 神 子 武 己	教育部学校給食課長の職にある者 (要領第3条第2項該当)	委員
や の よし ゆき 矢 野 喜 之	教育部学校給食課防災食育センター整備 担当長の職にある者 (要領第3条第2項該当)	委員

3 業務受託希望者申請要領

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望者申請要領

令和5年11月16日教育長決定

要領の趣旨

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務については、平成22年度から、民間が保有する学校給食調理等施設において調理等の業務を行わせる民設民営の委託方式を採用している。

本業務の委託に際しては、子供たちの食の安全を第一に考え、価格のみによることなく、学校給食への考え方や取組、調理等施設の概要、安全衛生管理、従業員の研修、緊急時の体制などを十分に確認して委託業者を選定する必要があるとして、公募型プロポーザル方式を採用し、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託業者選定委員会による審査を経て、選定された事業者との間に委託契約を締結し、平成26年度にこの契約期間は満了した。平成27年度及び令和2年度以降は、当該事業者からの受託希望申請を受け、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会の審査を経た上で引き続き契約し、現在に至っている。

現在の委託契約期間は、令和7年3月31日をもって満了することとなる。

このため、平成27年度及び令和2年度の手続きと同様に、令和7年度以降における本業務の委託に向け、当該業務の受託希望者が行う申請及び業務の受託者の選定に関し、必要な事項を定めるものである。

第1 業務の概要

1 委託業務の内容及び仕様

委託する業務は、武蔵村山市立の中学校において実施される学校給食の調理、配送、配膳、洗浄等の業務であり、その内容及び仕様は、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務委託仕様書（以下「仕様書」という。）に定めるとおりとする。ただし、仕様書の内容については、この要領に基づく業務受託希望者からの業務実施計画等を勘案し、契約締結までの間に、選定された者と市との協議により変更する場合がある。なお、令和7年9月よりアレルギー除去食の提供を行う予定である。

2 委託業務の履行場所

委託業務の履行場所は、次のとおりとする。

- (1) 調理、洗浄等 業務の受託者が保有する施設（この要領に基づく申請に係る施設とする。）
- (2) 配膳等作業 武蔵村山市立中学校（全5校）

3 委託予定期間

業務の委託期間は、令和7年4月1日から令和12年7月31日までの5年4月間と

する。

4 予算

提案上限額（消費税及び地方消費税を含む。） 1,090,000,000 円

※上記の提案上限額は、令和7年度以降の予算のため現時点では未確定である。武蔵村山市議会による減額、修正又は削除等の修正があった場合は、契約の締結を中止又は仕様書を変更して契約を締結する場合がある。

5 給食提供日数等

(1) 給食提供日数

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務による給食提供日数は、8月を除く4月から翌年の3月までの間で、192日程度とする。

(2) 給食基本人員並びに給食延べ回数及び食数

令和5年4月の給食基本人員並びに令和4年度給食延べ回数及び食数については、それぞれ次のとおりである。

ア 令和5年4月の給食基本人員

学 校 名	学 級 数	生 徒 数	教職員数
第一中学校	16学級 (1学級)	553人 (19人)	32人
第二中学校	6学級 (3学級)	151人 (41人)	26人
第三中学校	10学級	333人	20人
第四中学校	9学級	313人	20人
第五中学校	16学級	574人	33人
合 計	57学級 (4学級)	1,924人 (60人)	131人

※1 学級数欄・生徒数欄の（）内は特別支援学級で外数である。

※2 教職員数は、事務・嘱託職員を含む。

イ 令和4年度給食延べ回数及び食数

年 月	延べ回数	食 数
令和4年4月	15回	32,131食
5月	20回	44,417食
6月	21回	46,620食
7月	12回	30,144食
9月	19回	39,733食
10月	21回	46,131食

11月	20回	46,050食
12月	16回	35,190食
令和5年1月	16回	35,433食
2月	19回	37,901食
3月	13回	27,113食
合計	192回	420,863食

※1 各月の延べ回数は、学校ごとに異なる。

※2 食数には、調理員及び学校配膳員の食数並びに予備食の食数が含まれる。

第2 申請資格等

1 基本的な考え方

(1) 業務運営の基本

本市の学校給食は、学校給食法（昭和29年法律第160号）第2条各号に掲げる目標の達成を基本として実施することとしており、受託者は、受託業務が同法その他の学校給食に関する法令の規定に基づき教育の一環として行われるものであることを十分に認識し、受託業務を継続的かつ安定的に実施するものとする。

(2) 衛生管理の徹底等

受託者は、学校給食衛生管理基準の施行について（平成21年4月1日付21文科ス第6010号）、厚生労働省の大量調理施設衛生管理マニュアル等に基づき、受託業務を行う給食施設等の点検・清掃、食品の適正な取扱い、学校給食従事者の衛生管理及び健康管理等を徹底するとともに、学校給食従事者に対する研修等の実施により衛生意識の徹底を図り、食中毒などの事故防止に努めるものとする。

(3) 関係法令の遵守

受託者は、上記の衛生管理基準等のほか、学校給食調理施設の設置及び運営に関して適用される関係法令、条例等の諸規定を遵守して業務の運営に当たらなければならない。

2 申請資格

(1) 武蔵村山市競争入札参加資格を有していること。

(2) 武蔵村山市競争入札参加資格者指名停止措置要綱（昭和51年5月15日市長決裁）による指名停止を受けていないこと。

(3) 会社更生法（平成14年法律第154号）の規定による更生手続開始の申立て又は、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定による再生手続開始の申立てがなされていないこと。

(4) 武蔵村山市契約における暴力団等排除措置要綱（平成23年武蔵村山市訓令（甲）第7号）の措置要件に該当しないこと。

(5) 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4第1項の規定に該当していないこと。

(6) 3,000食以上の学校給食における共同調理場方式のセンターにおいて、3年以

- 上の調理及び配送配膳の業務受託実績を有していること。
- (7) 東京都内に本社、支社又は事業所のいずれかを有していること。
- (8) 競争入札参加資格審査申請において、提出された書類の記載事項に虚偽がないこと。

3 提出書類

	書類の名称及び要件等	摘要
1	武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望申請書	第1号様式
2	申請資格要件確認書	第2号様式
3	業務実績書	第3号様式
4	委託料見積書（5年4月分）	任意様式
5	会社概要	任意様式
6	企業単体の貸借対照表及び損益計算書（直近1年間）	任意様式
7	業務実施計画書	任意様式
8	調理等施設の図面（位置、敷地図を含む）	任意様式
9	調理等施設内設備一覧	任意様式
10	職員配置計画書（正規・非正規の別及び栄養士資格等の有無が分かるもの）	任意様式
11	就業規則又はこれに準ずる定め	任意様式

4 申請手続の日程等

(1) 申請の受付

ア 受付期間

令和5年11月22日（水）から同年12月25日（月）まで（市の休日を除く。）
の午前9時から午後5時まで

イ 提出先

武蔵村山市教育委員会教育部学校給食課（武蔵村山市立学校給食センター）
住所〒208-0004 武蔵村山市本町六丁目1番地の1
電話042-560-2597

ウ 提出方法

持参又は郵送で提出するものとする。

エ 提出部数

7部（正本1部、副本6部）

(2) 留意事項

- ア 提出書類に虚偽又は不正の記載があった場合は、失格とする。
- イ 提出書類の作成及び提出に伴う費用は、提出者の負担とする。
- ウ 提出書類は、受託者の選定以外に、提出者に無断で使用しない。

第3 受託者の選定

1 選定方法

受託者の選定に当たっては、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置し、次に掲げる基準に基づき、提出書類及びプレゼンテーションの2段階による審査を行う。業務受託希望者が審査基準を満たしていると認めるときは、当該業務受託希望者を業務の受託者として選定する。

令和6年1月19日（金）午後1時30分から審査委員会による審査を行うこととし、日程等の詳細については、申請者に別途通知する。

(1) 審査方法

ア 書類審査

イ プレゼンテーション

提出された業務実施計画書等を基にプレゼンテーション（約20分）及び質疑応答（約10分）を行う。

(2) 選定結果の通知等

審査委員会の選定結果に基づき、教育委員会が受託者とする者の決定を行い、その結果を通知する。また、選定された業務受託希望者の名称は、公表する。

2 選定基準

- (1) 学校給食に対する理解があること。（15点）
- (2) 安全・安心でおいしい給食を提供することができること。（35点）
- (3) 業務を安定して行う能力を有していること。（20点）
- (4) その他（30点）

3 審査基準

資料2「武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望者審査基準」のとおり。

第4 契約の締結

1 契約締結の時期

第3により選定された業務受託希望者との契約は、令和7年4月1日付で締結する。

2 留意事項

1にかかわらず、武蔵村山市議会において、令和7年度の関係予算に関し、削除、減額等の修正があった場合は、契約の締結を中止し、又は仕様の内容を変更して契約を締結する場合がある。

業務実施計画書作成要領

1 用紙規格

原則として、日本産業規格 A 列 4 番の用紙で作成すること。やむを得ず当該規格以外の用紙を用いる場合においても、片袖折りにするなどして、製本は、同規格 A 列 4 番とすること。

2 記載事項

(1) 法人の概要として、次に掲げる事項

- ア 名称、所在地及び代表者の氏名
- イ 設立年月日、資本金の額、従業員数及び年間売上高
- ウ 主な事業内容
- エ 学校給食業務の受託実績
- オ その他

(2) 学校給食調理等業務の受託に当たっての基本的な考え方

(3) 委託予定期間中の業務実施計画として、次に掲げる事項

- ア 第 3 の 2 の選定基準を踏まえた業務実施計画
- イ 災害時における応急給食の提供の実施に関する考え方
- ウ その他業務の実施に関し特に P R したい事項

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望者審査基準

審 査 基 準	評 点
1 学校給食に対する理解があること。(15点)	小計 点
(1) 教育の一環としての学校給食の意義や目的を理解するとともに、その重要性を認識しているか。	5・4・3・2・1
(2) 共同調理場方式をよく理解し、効率的に調理業務を遂行するためのツールや独自システムの方策を提案しているか。	5・4・3・2・1
(3) おいしい給食づくりの工夫や新たな献立の試作等に対する協力体制が提案されているか。	5・4・3・2・1
2 安全・安心でおいしい学校給食を提供することができること。(35点)	小計 点
(1) 学校給食衛生管理基準及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理マニュアルを整備し、これに基づいた調理業務を行えるか。	5・4・3・2・1
(2) 東京都の「学校給食における安全・衛生管理について」を遵守するとともに、年度の更新にも速やかに対応できるか。	5・4・3・2・1
(3) 過去に安全衛生管理上重大な事故を起こしていないか。起こしていた場合のその後の対応は適切であったか。	5・4・3・2・1
(4) 従事者等に対する食品の安全衛生管理に関する教育は徹底しているか。	5・4・3・2・1
(5) 従事者の健康管理（健康診断、細菌検査等）を確実に行うとともに労災事故を防ぐための防止策を設定し、その体制を整備しているか。	5・4・3・2・1
(6) 食中毒、異物混入等の予防対策の取組は十分であるか。	5・4・3・2・1
(7) アレルギー対応調理が行える実施体制及び経験を有しているか。	5・4・3・2・1
3 業務を安定して行う能力を有していること。(20点)	小計 点
(1) 仕様書に基づき業務を継続して安定的に履行する能力を有しているか。	5・4・3・2・1
(2) 緊急時の危機管理体制が確立されており、かつ、その取組が十分に機能するか。	5・4・3・2・1
(3) 手作り給食の経験者並びに学校給食及び大量調理の経験者を確実に配置するなど、安定的な給食提供のための職員配置がなされるか。	5・4・3・2・1
(4) 突発的な事象に対し、交代要員の確保など、十分に対応できる体制を有しているか。	5・4・3・2・1
4 その他 (30点)	小計 点
(1) 独自の事業等の提案は適切であるか。	5・4・3・2・1
(2) 全体の予算は適切で、経費節減が図れるものであるか。	5・4・3・2・1
(3) 災害時の協力体制は、実施可能な提案となっているか。	5・4・3・2・1
合 計 点 数	点

※ 4 その他の審査項目は、点数に2を乗じる。

4 審査委員会審査要領

武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会審査要領

第1 趣旨

この要領は、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会要領（令和5年11月17日教育長決定。以下「審査会要領」という。）により設置する武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託申請審査委員会（以下「審査委員会」という。）における武蔵村山市立中学校の学校給食調理等業務を委託する業者の選定に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2 総則

1 審査委員会の委員

審査委員会の委員は、要領第3条第2項の規定により、次の表に掲げるとおりとする。

氏名	区分	備考
池谷光二	教育長の職にある者 (審査会要領第3条第2項第1号該当)	委員長
雨宮則和	企画財政部長の職にある者 (審査会要領第3条第2項第2号該当)	
鈴木義雄	教育部長の職にある者 (審査会要領第3条第2項第3号該当)	職務代理
神子武己	教育部学校給食課長の職にある者 (審査会要領第3条第2項第4号該当)	
矢野喜之	教育部学校給食課防災食育センター整備担当課長の職にある者 (審査会要領第3条第2項第5号該当)	

2 選定基準

選定基準は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 学校給食に対する理解があること。
- (2) 安全・安心でおいしい給食を提供することができること。
- (3) 業務を安定して行う能力を有していること。
- (4) その他

第3 審査及び選定

審査及び選定の方法

(1) 通則

審査は、申請業者の名称を明らかにした上で、当該申請業者から提出された武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望申請書、申請資格要件確認書、業務実績書、委託料見積書、業務実施計画書その他の書類（以下「提出書類」という。）の内容及び当該申請業者による提出書類の内容に関する説明（プレゼンテーション）を基に採点方式の総合評価により行う。

(2) 説明（プレゼンテーション）

申請業者から20分以内で提出書類の内容に関する説明（プレゼンテーション）を受け、その後、10分程度の質疑応答を行う。

(3) 審査基準

審査は、武蔵村山市立中学校学校給食調理等業務受託希望者審査基準（別記様式）（以下「審査基準」という。）に基づき、各項目について5段階評価により1点から5点までの点数を付すことにより行う。

(4) 審査及び選定の手続

申請業者による説明（プレゼンテーション）の終了後、各委員は審査基準に基づき個別に審査及び採点を行う。

各委員の採点を項目ごとに集計した点数を委員の数で除した数値（小数点以下第2位を四捨五入する。以下「評点」という。）の合計が過半点に満たない場合又は評点のいずれかが満点の10分の3に満たない場合は、失格とする。

第 26 回武蔵村山市生涯学習フェスティバルの開催について

- 1 主 催 生涯学習フェスティバル実行委員会 武蔵村山市民会館
- 2 共 催 武蔵村山市教育委員会
- 3 日 時 令和 6 年 3 月 3 日（日）午前 10 時から午後 3 時まで
- 4 開 会 式 令和 6 年 3 月 3 日（日）午前 9 時 40 分から
（市民会館小ホール）
- 5 場 所
 - ・ さくらホール（武蔵村山市民会館）
（小ホール、展示室、集会室、会議室、研修室）
 - ・ 市役所市民駐車場
- 6 体験ブース 11 団体
木工、和太鼓や鳴り物に触れてみよう、紙飛行機を飛ばそう、ミニいけばな体験、ペーパークラフトのかご作成、オリジナルバック制作、壁打ち体験（テニササイズ）、チョークアート、ハーバリウムキーホルダー作成、多肉植物の寄せ植え、マジックショー&レクチャー
- 7 舞台出演 9 団体
合唱・コーラス（2）、手話ダンス、ピアノ・ヴァイオリン演奏、リコーダーアンサンブル、フラダンス、ヘルマンハーブ演奏、尺八演奏、民謡と踊り
- 8 その他（販売）パン、シフォンケーキ、ドーナッツ、焼きとり、焼きそば、わたあめ、ポップコーン、フランクフルト、飲物

第26回 武蔵村山市

生涯学習フェスティバル

令和
6年

3月3日(日) 午前10時から午後3時まで

(雨天決行)



思いっきり体験 楽しく交流！！



「様々な技術や知識を体験・学習すること」「出展者と来場者が交流を図ること」を目的とした催しです。
ソーシャルディスタンスなど、マナーを守ってご参加ください。

会場

市役所市民駐車場(市民会館北側)
さくらホール(市民会館)

主催 生涯学習フェスティバル実行委員会・武蔵村山市民会館
共催 武蔵村山市教育委員会





体験ブース



《市役所市民駐車場》

※材料がなくなり次第終了となります。

	活動内容（団体名）	参加料
①	木工作（東京土建一般労働組合 村山大和支部） 対象：小・中学生 大工さんが使用する道具の使い方を学びながら木工作をします。	無料
②	和太鼓や鳴り物に触れてみよう（関東武蔵太鼓） 和太鼓や鳴り物に実際に触れ、みんなで演奏します。	無料
③	紙飛行機を飛ばそう（武蔵村山紙飛行機クラブ） 紙飛行機を組み立て、ゴムカタパルトを使って飛ばします。	無料

《さくらホール（市民会館）》

※参加には、整理券が必要です。

	活動内容（団体名）	参加料	部屋
④	ミニいけばな体験（花・シンフォニア） 幼児から高齢者までどなたでも手軽に楽しめます。	200円	展示室
⑤	ペーパークラフトのかご作成（かご屋さん） 手作りされたペーパークラフトのかごに飾りつけをします。	300円	
⑥	オリジナルバック制作（NPO 法人いつひよファミリー・育はぐ） けしごむはんこを使って世界に1つのバックを作りましょう。	200円	
⑦	壁打ち体験（テニササイズ） テニスのラケットを使い、ふわふわボールで壁打ちします。	無料	
⑧	チョークアート（チョークアート） 小さなボードに好きな色を塗りましょう。	200円	集会室
⑨	ハーバリウムキーホルダー作成（プレシャス） オリジナルキーホルダーを作りましょう。	300円	会議室 1・2
	オリジナルヘアゴム作成（プレシャス） ビーズ等で飾りつけをして、オリジナルヘアゴムを作りましょう。	200円	
⑩	多肉植物の寄せ植え（花みずき） 多肉植物（サボテン）を小さな鉢に寄せ植えします。	300円	
⑪	マジックショー&レクチャー（株式会社リゾン） マジックショーを見た後に、体験ができます。	無料	研修室

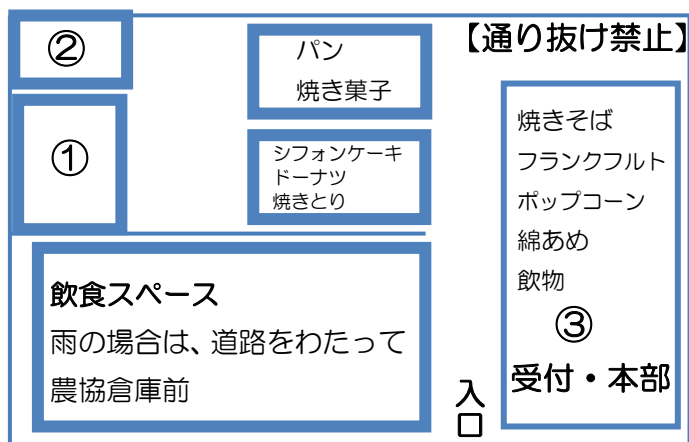
販売

パン、シフォンケーキ、ドーナツ、焼きとり、
焼きそば、わたあめ、ポップコーン、フランクフルト、飲物

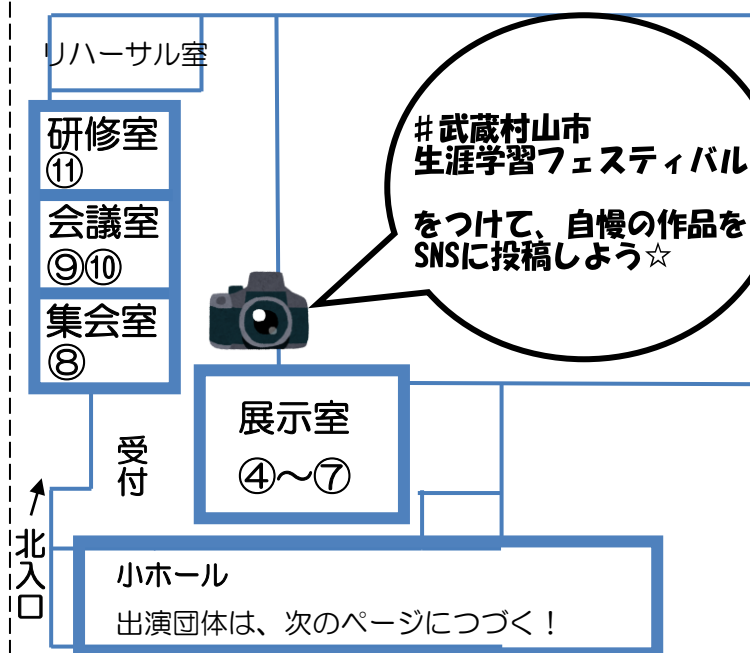
※食べ物は持ち帰ることができません。会場内の飲食スペースをご利用ください。

会場案内

★市役所市民駐車場★



★市民会館 1 階★



ごみの持ち帰りにご協力ください！！

かいじょうない ばこ
会場内にごみ箱はありません。
で かくじも かえ
出たごみは、各自持ち帰りましょう。
わす
マイバッグを忘れずに！

参加方法

ワークショップに参加する場合は、整理券を忘れずに！！

④～⑪の体験ブースで行われるワークショップは、整理券を持っているかたが
さんか
参加できます。

整理券は、午前9時50分頃から市民会館1階 受付付近で配布します。

ワークショップを行いたい時間のマグネットを取って、
時間になったらそのマグネットを持って会場に入ってください。

①～③は、それぞれのブースで受付をします。

あ
ゆずり合って、参加してください。

舞台出演プログラム

《市民会館小ホール》

時間	出演者（出演内容）
9:40	開会式
10:00	さくらホールミュージックコミュニティ合唱団（合唱）
10:30	みにといぼっくす（手話ダンス）
11:00	菅原 明善（ピアノ、ヴァイオリン演奏）
11:25	プルチーノ（リコーダーアンサンブル）
11:50	アロハミネ（フラダンス）
♪ 休憩 ♪	
13:00	ヘルマンハーブ音紡ぎ（ヘルマンハーブ演奏）
13:30	The Voice of + One（コーラス）
14:05	尺八現代吹奏会（尺八演奏）
14:35	武蔵村山市民謡連盟（民謡と踊り）
15:00	閉会式

※ 進行の都合上、出演時間が前後することがあります。

みんなが安心して楽しめるように！！

たいちょう ばんぜん じょうたい さんか
体調が万全な状態で参加してください。

フェスティバルに参加する場合は、こまめに手指の消毒をしてください。

せき
咳エチケット、ゆずり合い、ひとりひとりがマナーを守りましょう。

こうにゅう た もの の も かえ
購入した食べ物や飲み物は、持ち帰らず、なるべく早くお召し上がりください。

すいぶんほきゅう のぞ かいじょうない いんしょく かなら
水分補給を除く、会場内での飲食は、必ず飲食スペースをご利用ください。